

保護管理の基本的な考え方・進め方

特定鳥獣保護・管理計画の策定のためのガイドライン(クマ類編)改訂版

<https://www.env.go.jp/nature/choju/plan/plan3-2c/>

クマ類の出没対応(環境省)

「クマ類の出没対応マニュアル改定版」

<https://www.env.go.jp/nature/choju/effort/effort12/effort12.html>

【秋田県の事例】 クマ出没対応の机上訓練

- ・机上訓練は、状況設定を行い、関係機関の役割や連携、現場での動き方など、一連の流れを確認する。
- ・「初動（通報から各方面への連絡・現地集合まで）」、「現地でのクマの発見まで」、「クマの発見から事態収集まで」の3段階でシミュレーション。

状況設定：午前7時、支援学校職員が出勤してきたところ、裏の駐車場でクマを目撃。クマは校舎方面に向かった。どこに入り込んだかは怖くて確認できず。支援学校から警察に通報。

たとえば・・・

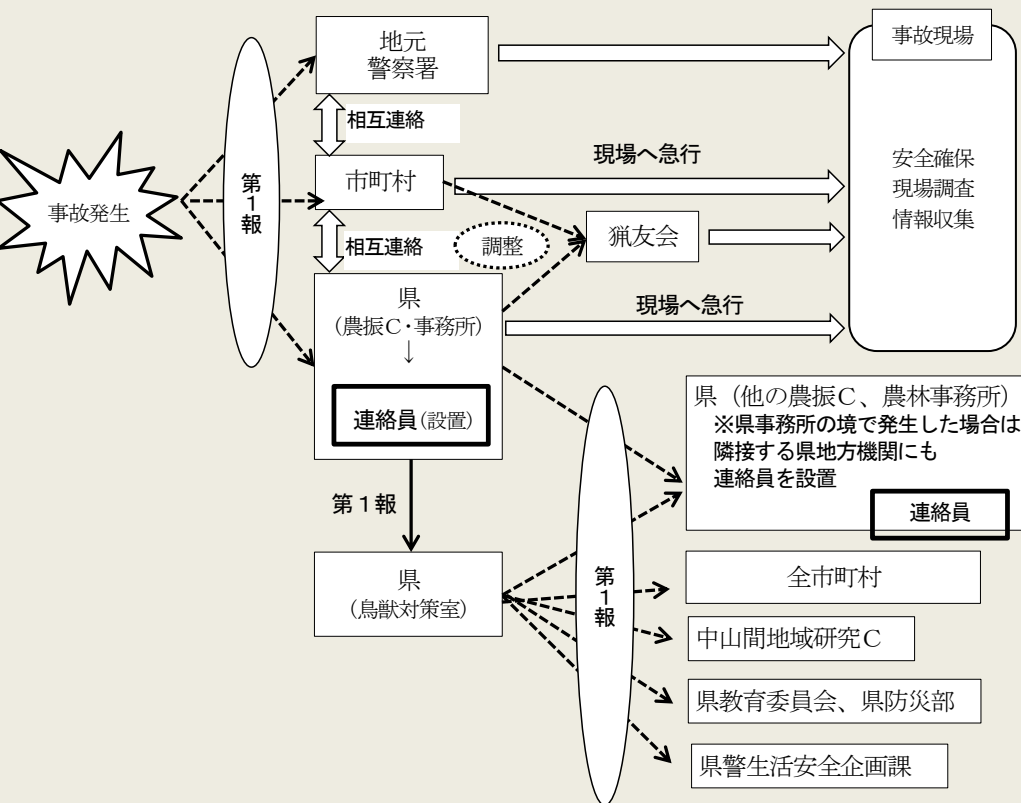
状況設定：6月22日（水）、22：00。庭を歩いているクマを家の中から発見。クマを見ていたら、米を保管している倉庫に入った。住民から市町に担当者に通報。

状況設定：6月26日（日）、13：30。クマを〇〇駅で目撃した。一般の方から市役所の宿直に通報。

状況設定：6月27日（月）、9：10。クマを〇〇小学校の校庭で目撃。クマは学校のサクラの木に籠城している。先生から警察に通報。



- ・クマの出没はいつあるかわからない。夜間、早朝、休日。。。
- ・あらゆる可能性を考えた連携体制の構築、シミュレーションが必要。



クマ出没対応の連絡体制要領？
クマ出没対応関係者対応ルール？



要領、ルール等があることに満足していませんか？

本日の内容

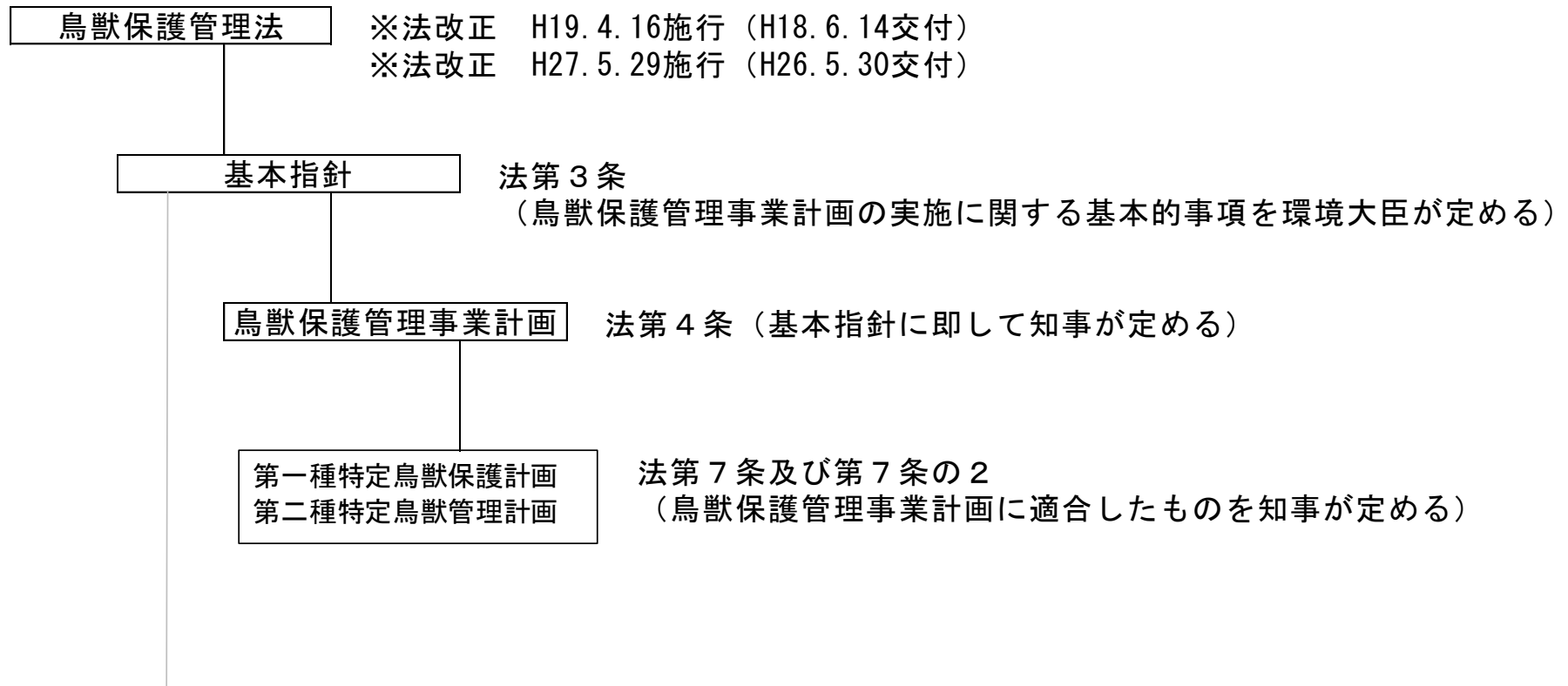
①ツキノワグマの基本生態

②保護管理のポイント

③**錯誤捕獲**

④出沒対応について（関係機関の連携）

各事業計画の位置付け



基本指針(R3.10告示)

5 鳥獣の管理の強化に伴う配慮事項 (1)錯誤捕獲の防止

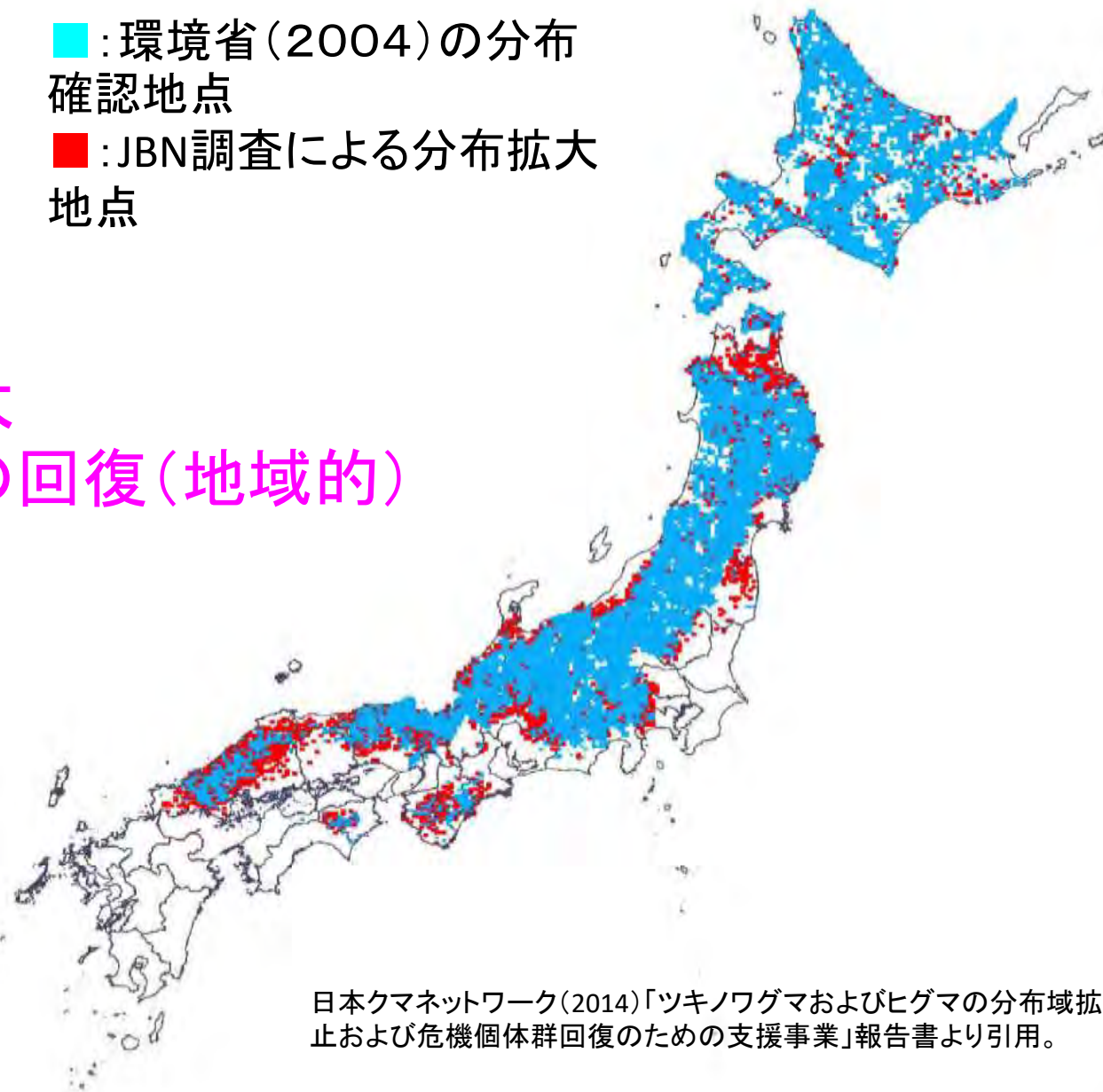
3 その他、鳥獣の捕獲等及び鳥類の卵の採取等の許可に関する事項

3-1 捕獲許可した者への指導 (4) 錯誤捕獲の防止

etc

なぜ錯誤捕獲が発生する？

■ : 環境省(2004)の分布
確認地点
■ : JBN調査による分布拡大
地点

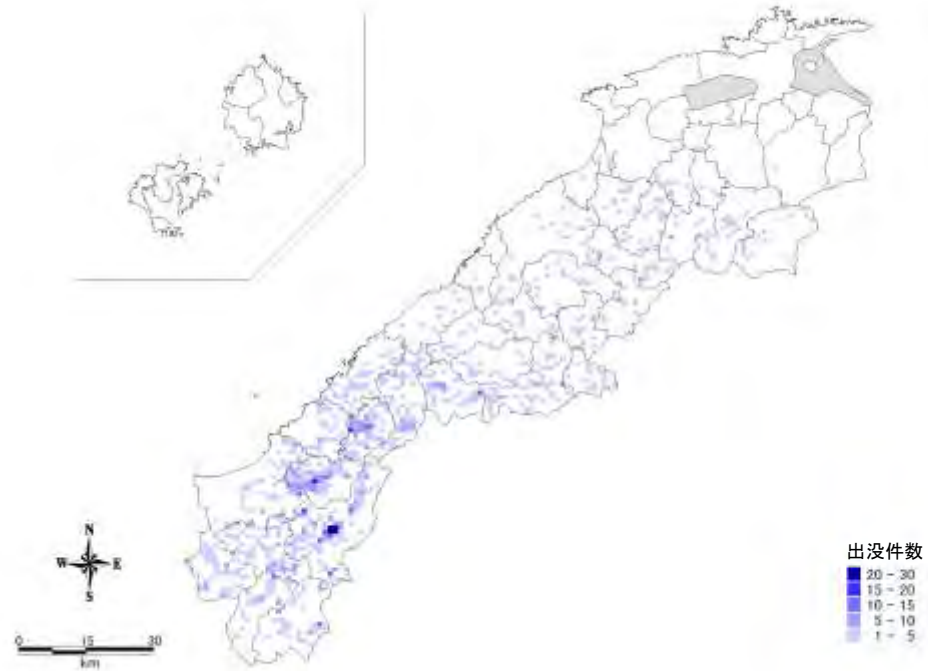
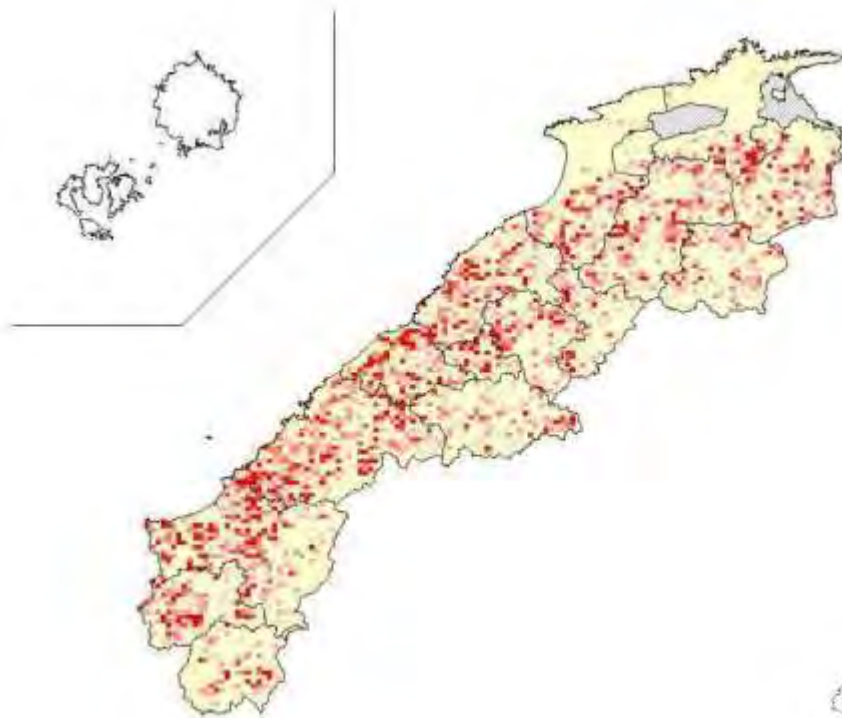


- ・分布拡大
- ・個体数の回復(地域的)

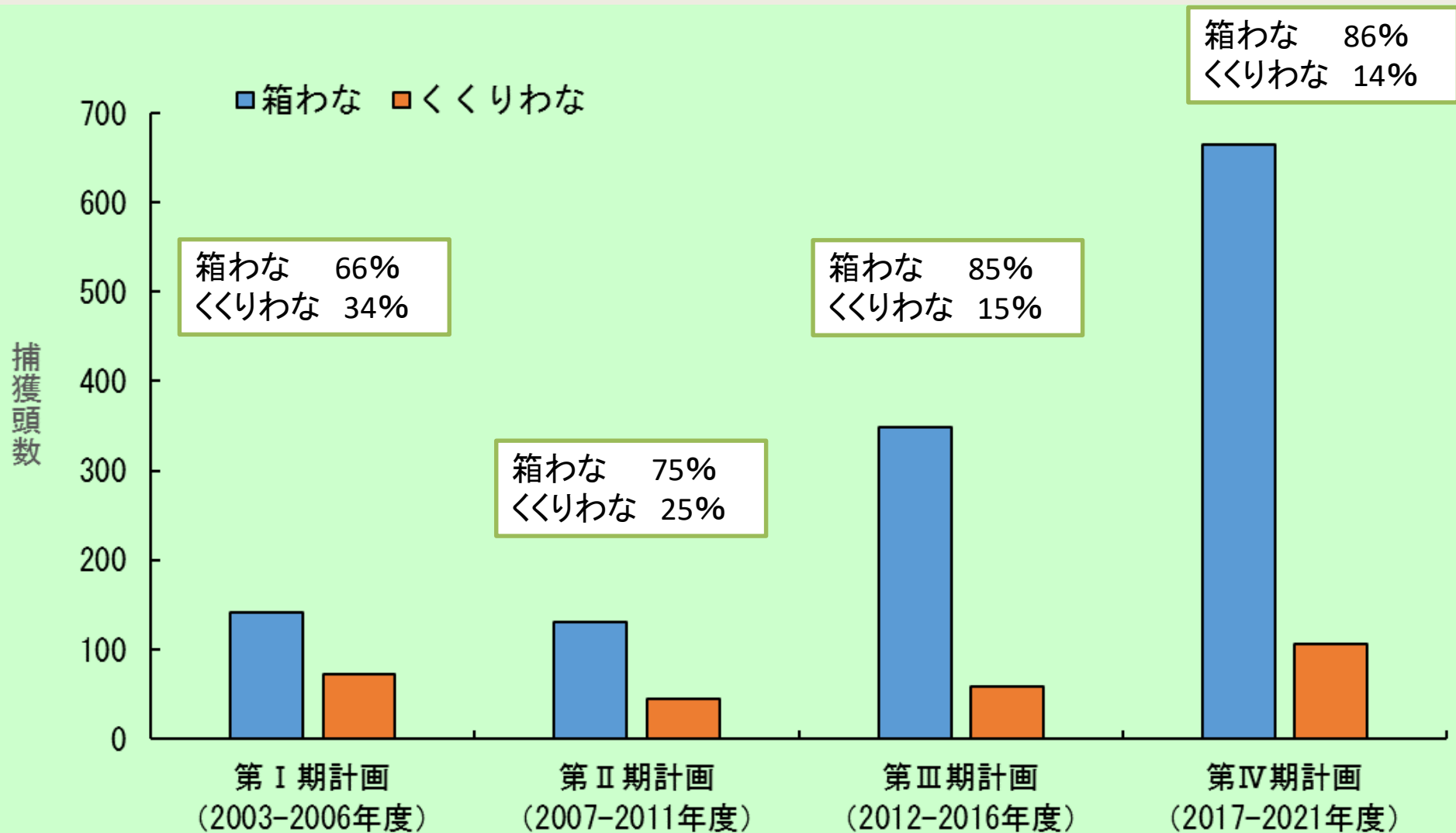
日本クマネットワーク(2014)「ツキノワグマおよびヒグマの分布域拡縮の現状把握と軋轢抑止および危機個体群回復のための支援事業」報告書より引用。



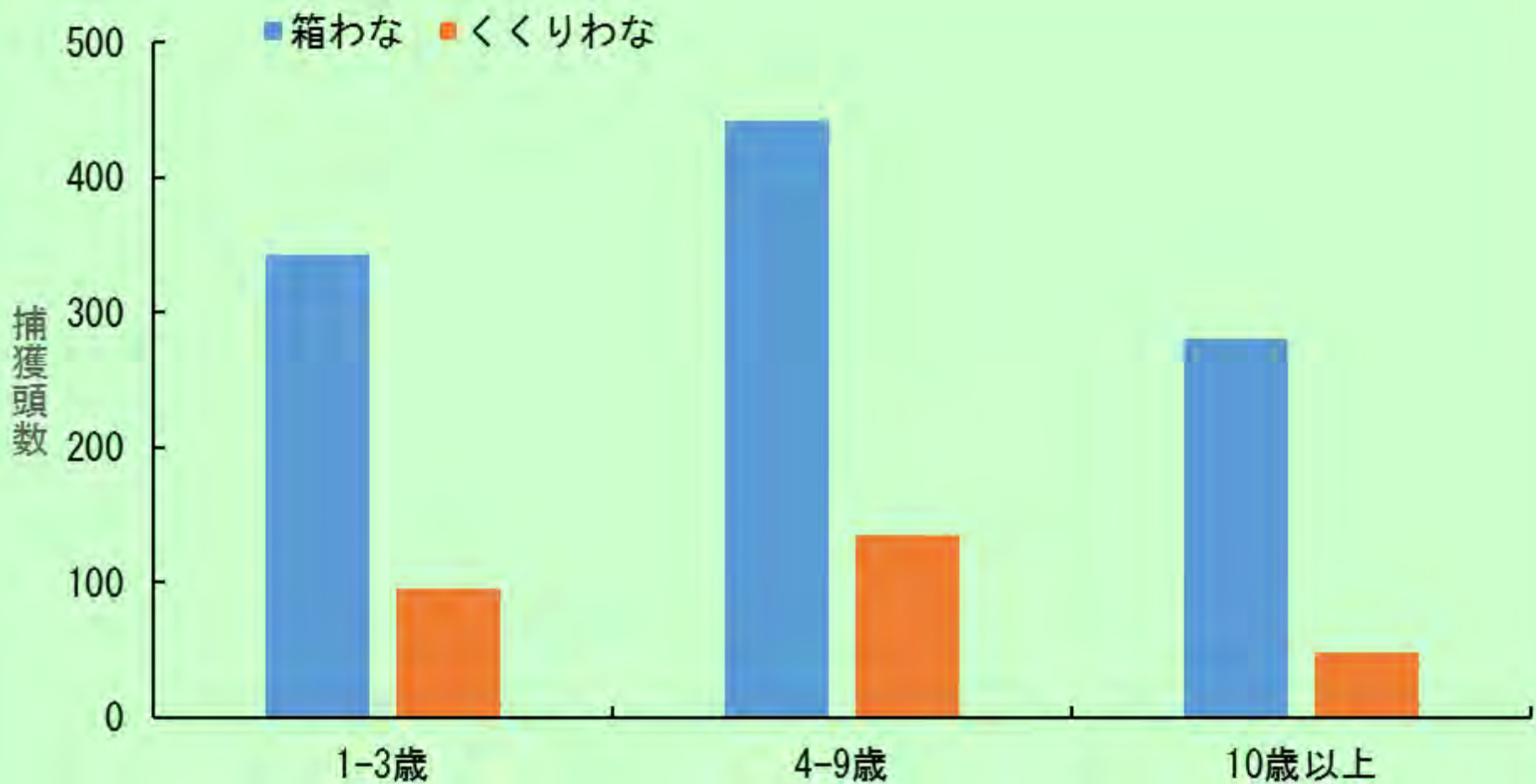
イノシシの捕獲位置



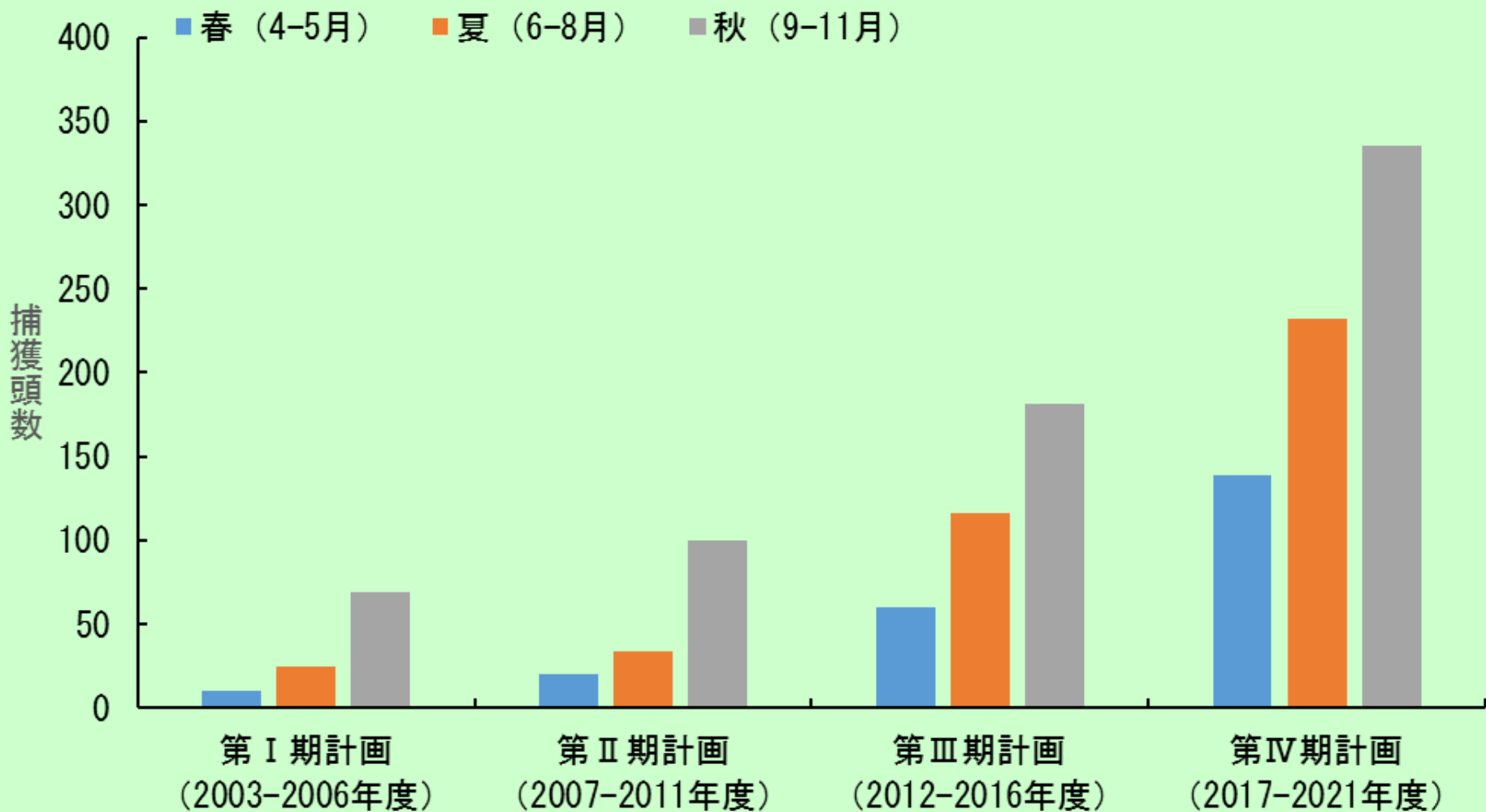
クマの捕獲位置



わな別の錯誤捕獲数



わな種別による錯誤捕獲個体の年齢構成



錯誤捕獲の季節別の捕獲数

広域鳥獣情報ステーション

検索

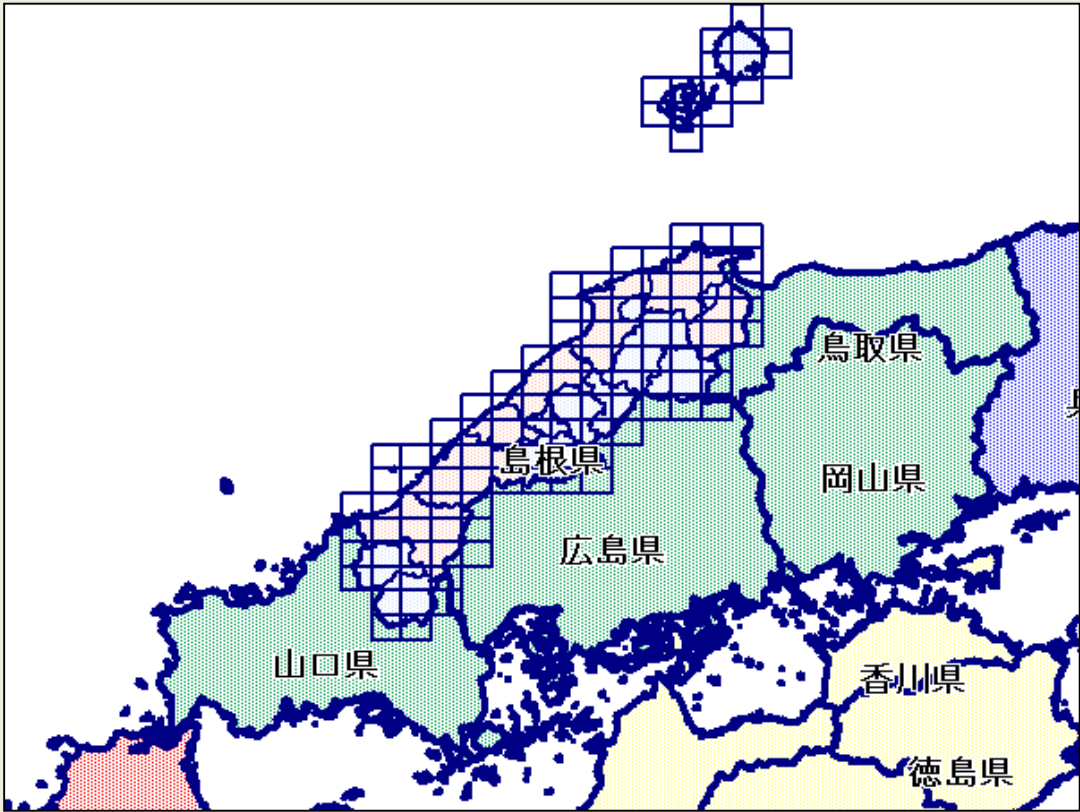
ログイン

マップ

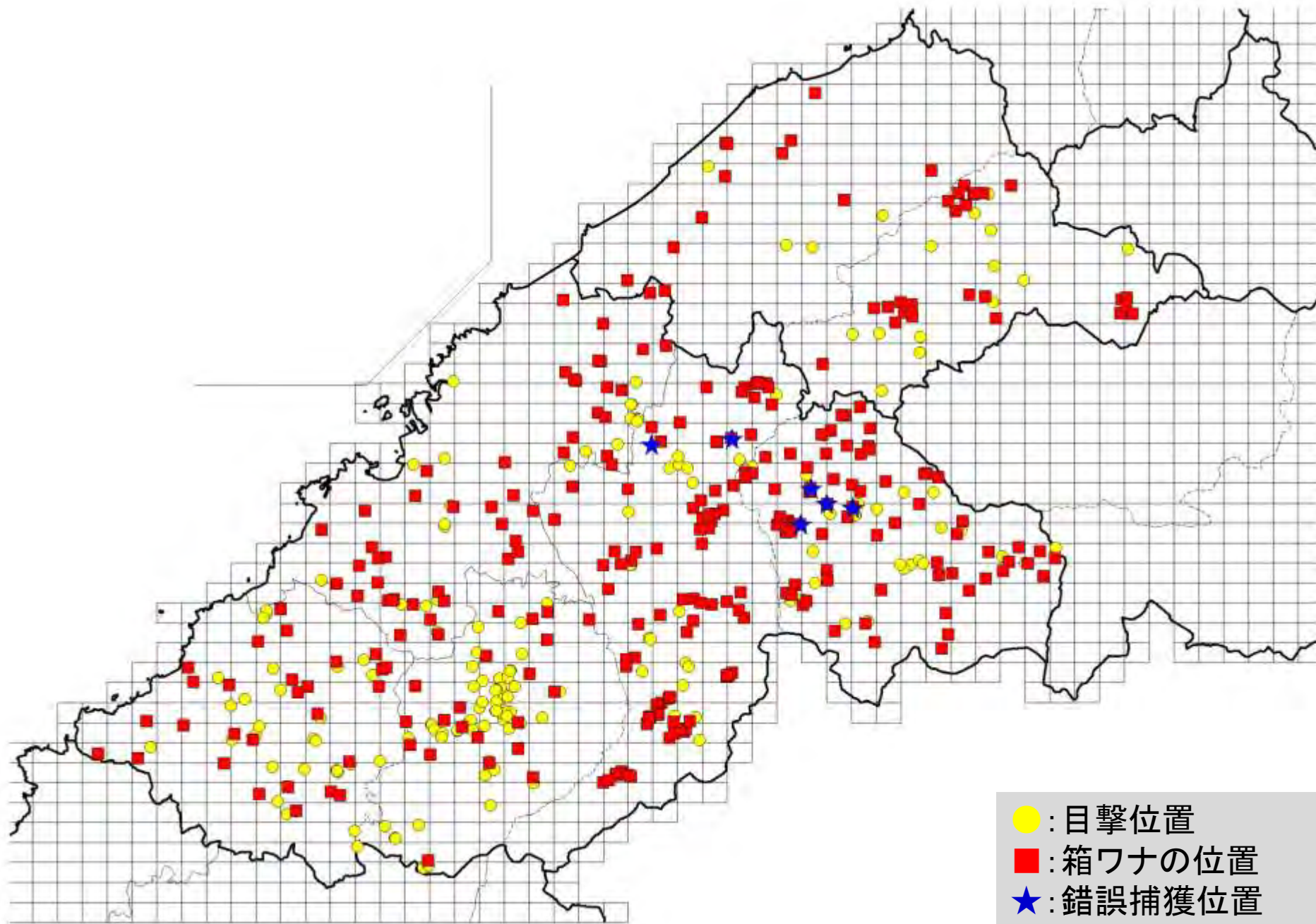
◎拡大 ○縮小 ○移動 ○情報

- ★イノシシ目撃・出没(80件)
- ●イノシシ被害(90件)
- ★ニホンジカ目撃・出没(100件)
- ●ニホンジカ被害(6件)
- ★ニホンザル目撃・出没(19件)
- ●ニホンザル被害(300件)
- ■ツキノワグマ目撃・出没(2件)
- ■ツキノワグマ被害(1件)
- ★ヌートリア目撃・出没(20件)
- ●ヌートリア被害(3件)
- ★アライグマ目撃・出没(87件)
- ●アライグマ被害(20件)
- ★その他目撃・出没(10件)
- ●その他被害(0件)

表示



現在、広域鳥獣情報ステーションは運用して
いません。



- : 目撃位置
 - : 箱ワナの位置
 - ★ : 錯誤捕獲位置
- (2006年8, 9月)

錯誤捕獲：意図しない鳥獣種の捕獲

⇒各獣種が混在する中で錯誤捕獲をゼロにすることは相当困難。

⇒ただし、錯誤捕獲をさせない努力、継続的な指導・啓発は必要。

ex) 箱わなの適正な運用

○錯誤捕獲を防ぐわなの開発

⇒研究者等による新たな技術開発に期待

○錯誤捕獲時の体制整備

⇒専門的な人材の配置、外部委託

本日の内容

- ①ツキノワグマの基本生態
- ②保護管理のポイント
- ③錯誤捕獲
- ④出没対応について（関係機関の連携）

隠岐支庁

2013年
に配置

2011年
に配置

2010年
に配置

2004年
に配置

東部農林振
興センター

鳥取県

出雲事務所

雲南事務所

県央事務所

西部農林振
興センター

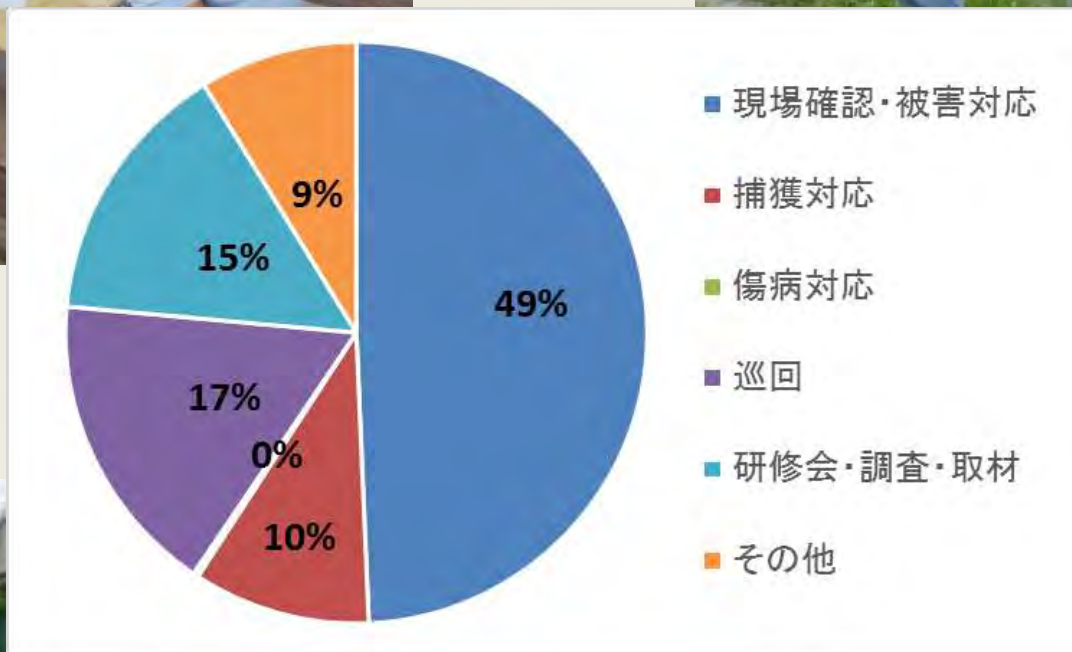
広島県

益田事務所

山口県

2023年5月末現在、合計5名
(男性1、女性4)を配置

島根県における鳥獣専門指導員の配置状況



クマの出没・被害発生
クマの捕獲(錯誤捕
獲・有害捕獲等)

市町役所に連絡

県地域事務所に連絡

現場へ出動

・出没要因の検証
・電気柵の設置指導
・誘引物の撤去指導

・錯誤捕獲(放獣)
・有害捕獲(放獣・除去)
・交通事故死個体の回収

現場対応における連絡体制



誘引物の除去



～ 市町村との連携 ～

- ・ 現場対応時は市町担当者と一緒にいて情報を共有

→市町村担当者の被害対策技術の向上



クマの出没・被害発生
クマの捕獲(錯誤捕
獲・有害捕獲等)

市町役所に連絡

県地域事務所に連絡

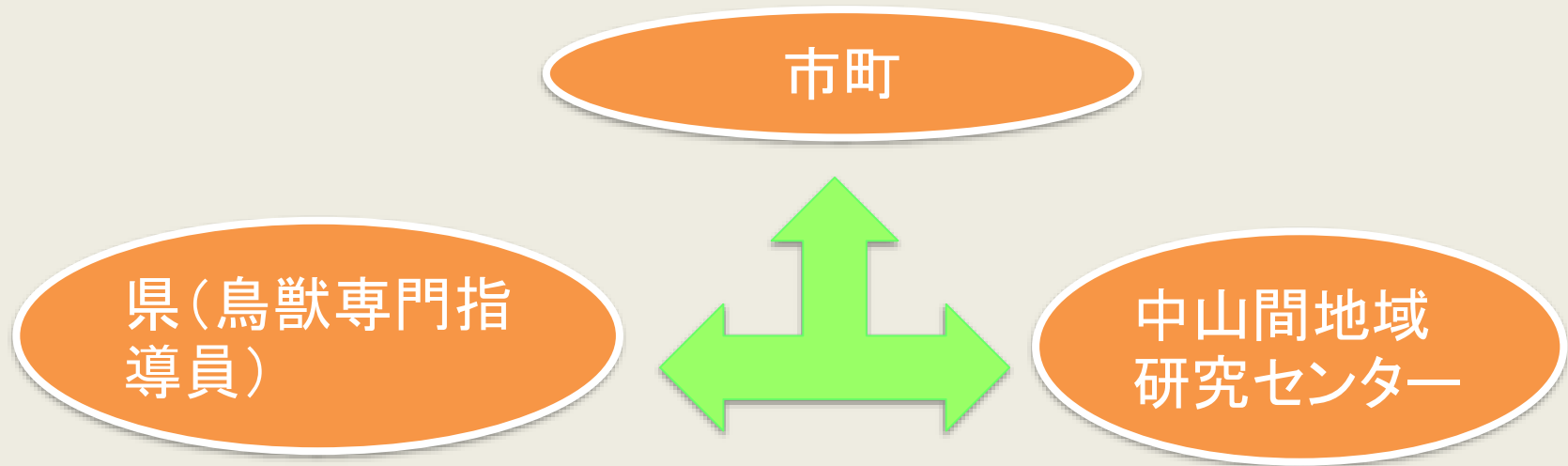
現場へ出動

- ・出没要因の検証
- ・電気柵の設置指導
- ・誘引物の撤去指導

- ・錯誤捕獲(放獣)
- ・有害捕獲(放獣・除去)
- ・交通事故死個体の回収

現場対応における連絡体制のイメージ

錯誤捕獲・有害捕獲等の対応



土日、祝日は当番制で対応。



関係機関との連携

事例（軒下での籠城 11月）

9：00 集落にある柿の木近くで地元猟師目撃。
クマが人間に気づき空き家へ逃げる。

9：30 役場から公用携帯へ通報。

11：30 集合場所着

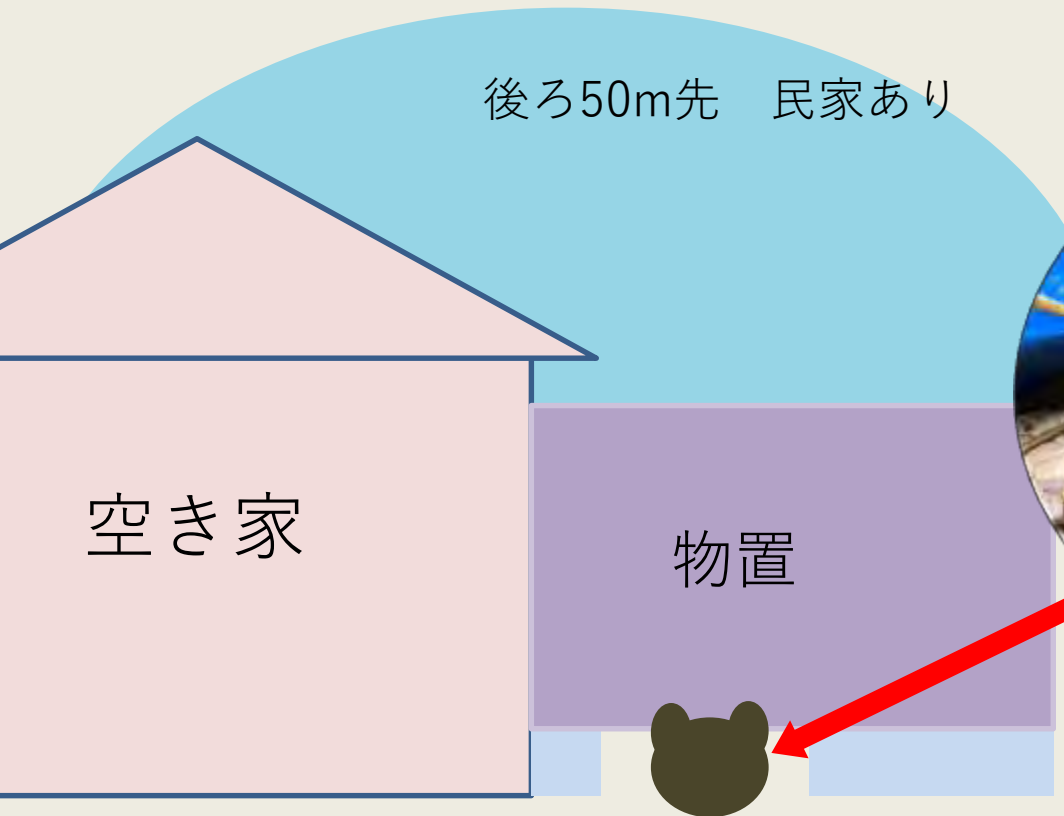
11：40 現場確認（対応の判断）

12：00 麻酔で不動化（吹き矢）

12：45 現場確認

13：00 撤収

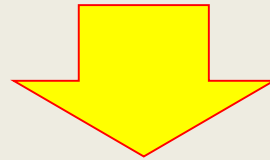
クマに動きがない為吹き矢で対応



中の様子は見えづらい

多様な連携

- 形式（組織？会議？）だけの連携では意味がない。
- 被害現場での連携をどう構築していくのか？



鳥獣類の被害対策や保護管理に現地で専門的に対応できる人材の配置等が多様な連携の力ギになると考える。

まずは、できることから少しずつ実績を積み上げていき、その地域にあった体制、関係性を構築していくことが重要。

A black bear and two cubs are seen in a forest setting. The adult bear is positioned in the upper left, looking towards the camera. Two cubs are located below it, near a large fallen log. The ground is covered with dry, brownish vegetation and numerous bare, light-colored branches. The scene is captured in a slightly grainy, naturalistic style.

ご静聴ありがとうございました